



# はなもみじ

平成22年 屋代  
5月20日 小学校  
春秋ごくに句うなり

## 聴くこと・話すことを大切にした授業 ~ すべての授業の中で大切に ~

確かな学力を育てるため、本年度より「聴くこと」「話すこと」をしっかりと身に付けるための取組を始めます。友達の名前がたくさん出てくる授業の中で、力を伸ばしていくことを願い、授業改善をすすめます。

### 全校研究テーマ：伝え合い、学び合う授業の創造（1年次）

新学習指導要領では、**言語の力をはぐくむ**ことが重視されています。言語は、知的活動（論理や思考）やコミュニケーション、感性・情緒の基盤です。国語だけでなく、各教科等で言語活動を取り入れていく必要があります。

本校では、伝え合うこと（「聴く」「話す」「読む」「書く」）を「**学びを支えるもの**」としてとらえ、他者との**伝え合い**を通して互いに**学び合う**子どもを育成していきたいと願っています。



具体的には、下記のような伝え合い・学び合いカード（低・中・高学年別）を作成し、授業場面で「聴き方」「話し方」を意識しながら学習していきます。

「**さんにつけたして...**」「**さんと（少し）ちがっていて...**」と友達の意見につなげて話したり「**習った何をもとに考えているのかな？**」「**もっとよい方法ができないかな？**」と考えながら聴いたりできるといいですね。

伝え合い・学び合いカード（算数）\_\_年\_\_組 名前\_\_\_\_\_ 千曲市立屋代小学校 

#### 話し方のきほん

- ・全員に聞こえる大きな声で、最後まで話す。
- ・聞く人に、顔と体を向けて話す。
- ・絵や図、具体物を使って、わかりやすく話す。
- ・わからないことは、えんりよせずに質問する。

#### きき方のきほん

- ・最後までしっかりときく。
- ・話し手に顔と体を向けてきく。
- ・うなずいたりして、反応しながらきく。
- ・話し手の考えのよさを認めながらきく。



#### 話し方のおうよう

- ・既習事項・経験とつなげて具体的に話す。
- ・友達のよい考えに、自分の考えをつけたす。
- ・友達の考えとの違いを、理由を加えて話す。
- ・結論から述べ、その理由を簡潔に説明する。

#### きき方のおうよう

- ・話し手の言いたいことを整理しながらきく。
- ・自分の考えをふくらませながらきく。
- ・いくつかの意見を比べながらきく。
- ・もっとよい説明はないか考えながらきく。

習った学習を使って考えること  
 図や表を使って考えること  
 にている問題の方法や考えを使って考えること  
 いつでも使える方法を考えること  
 共通点（同じところ）をさがすこと

考える足場をもとう！  
 考える道具を使おう！  
 学習したにた問題を思い出そう！  
 数を大きくしたり、形を変えたりして調べよう！  
 きまりを見つけよう！

問題をとくときに  
大切なポイント

発達障害は、いわば認知の障害です。さまざまな能力の発達に偏りがあるため、うまく情報処理ができずに、「学習面や対人関係等での困難さ」が起きてくるといわれます。しかし、学習がうまく定着しなかったり、人間関係で悩んだりするのは、発達障害のある子どもだけではありません。また、障害があるなしの境界に位置するグレイゾーンの子どものも多いと聞きます。

しばらくの間、発達障害のある子どもへの支援の中で、すべての子どもにとって必要な「家庭でのかかわり」(躰)を述べていきたいと思います。

### 子どもへの笑顔を絶やさない

生後間もない幼児は、母親のやさしい言葉や明るい笑顔によって知能の正常な発達が促されるそうです。温かに言葉と表情に包まれることで、子どもたちは健やかに成長していきます。それは、どんなに大きくなってしても同じことです。

私たちが生活する中で、相手の感情を理解するための視覚的情報の一つとして、表情があります。発達障害のある子どもの中には、相手の表情からその気持ちを推し量ったり、自分の気持ちを表情に表したりすることが苦手な子どもがいます。



笑い顔



泣き顔



怒り顔

**怒っている顔、笑っている顔、悲しい顔...ちゃんと見分けられますか？**

コミュニケーション・スキルの発達は、相手の表情から感情や気分を読み取ることから始まります。表情から読み取った感情を理解し、その場面に適した発言や行動ができなければ、対人関係に問題が生じてきます。

子どもが、さまざまな場面で適切な言葉や表情を使えるようにするには、私たち大人が手本(よきモデル)となり、それを教えていく必要があります。

教師は「おはよう」と教室に入ってきた子どもを、笑顔で迎え入れなければいけません。ご家庭でも「ただいま」と言って帰ってきた子どもを笑顔で迎えてください。笑顔が信頼の証であることを繰り返し伝えましょう。

私たちの感情の平静さや明るさは、子どもたちの心の安定に大きな影響を与えます。笑顔を見ることで、これからの一日に安心感をもったり、一日を頑張ってきたことに喜びを感じたりするのです。また、笑顔をつくるだけで、その人自身のストレスも解消するという研究結果も報告されているそうです。

**学校も家庭も、笑顔あふれる場にしていきたいものですね。**